

「地域に頼られる病院のある意味、地域に頼られる学校がある意味」

不登校等「学校不適應」への学校の対応と予防

和歌山大学名誉教授/国立ハノイ教育大学大学院客員教授

武田 鉄郎

目的

不登校等「学校不適合」への学校の対応と予防について、私が長い間携わってきた①和歌山大学教育学研究科における特別支援教育コーディネーター養成教育のうち「**特別支援教育とコンサルテーション**」と、②科学研究費補助金等で行ってきた「**発達障害の不登校等の二次障害の対応と予防に関する実践研究**」から得た取り組みの一部を紹介することを通して、「地域で頼られる学校づくり」を考える。

2021年度

不登校の小中学生が24万を超える。小学生約8万1千人、中学生約16万3千人。
高校でも長期欠席の生徒が約11万8千人（文部科学省）

①和歌山大学大学院教育学研究科において

特別支援教育センターコーディネーターの養成

現職教員については、児童生徒の自立や社会参加に向けたライフステージに応じた指導・支援を行うと共に、特別支援学校のセンター的機能を果たすためのコンサルテーションの専門性を向上させる。

特別支援教育コーディネーターとして、通常の学級に在籍し、支援を必要とする児童生徒への全校的対応について助言を行い、校内支援体制の構築に寄与する資質能力を高める。

特別な配慮を必要とする児童生徒の家庭の理解、支援を行うことができる資質能力を高める。

不登校・ひきこもりの4人に1人が発達障害



和歌山大学

科目:特別支援教育とコンサルテーション

Zoomを活用し、和歌山県内の特別支援学校教育相談及び地域支援部へのコンサルテーション
(地域の幼稚園、小中学校等からの困難事例を対象に)

Zoom等を用いた特別支援学校相談及び地域支援部の教員へのコンサルテーション
右図の各支援学校は教職大学院生、アドバンスト・プログラム学生の所属学校であり、大学教員がコンサルテーションのため3~6回ほど実際に訪問。

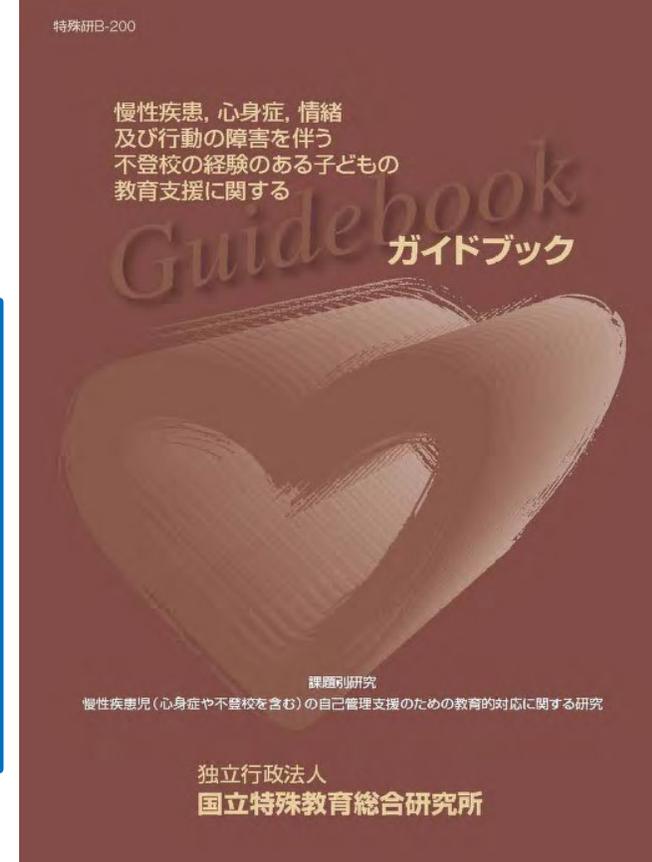


特別支援学校センターコーディネーター、通級指導教室の担当者は和歌山大学のプログラムを修了した者が6~7割程度



② 科研費等の実践研究から

学校における不適応のアセスメントと情報共有、支援の方策（叱らないけど譲らない提案・交渉型アプローチ）を考える。



1. ASEBA (Achenbach System of Empirically Based Assessment) を活用して心理社会的な適応不適応状態を包括的に評価するシステムで不適応状態をアセスメントし、実態を把握する。
2. 場合によっては、TSCC-A (子供用トラウマ症状チェックリスト) でトラウマをチェックする。
3. 学校の教員にトラウマや不適応状態を可視化し、情報を共有する。
4. 支援の方向性を共有する。
5. 数カ月後、再評価し、指導・支援を継続する。

小中学校の中間的な教室の紹介

特例校（不登校児童生徒を対象とする特別の教育課程を編成して教育を実施する学校）2005年（平成17年7月）から文部科学大臣の指定により行うことが可能

→このような制度ができている

学校独自での取り組み

通常の学級、通級指導教室、特別支援学級の**中間的な教室**の紹介

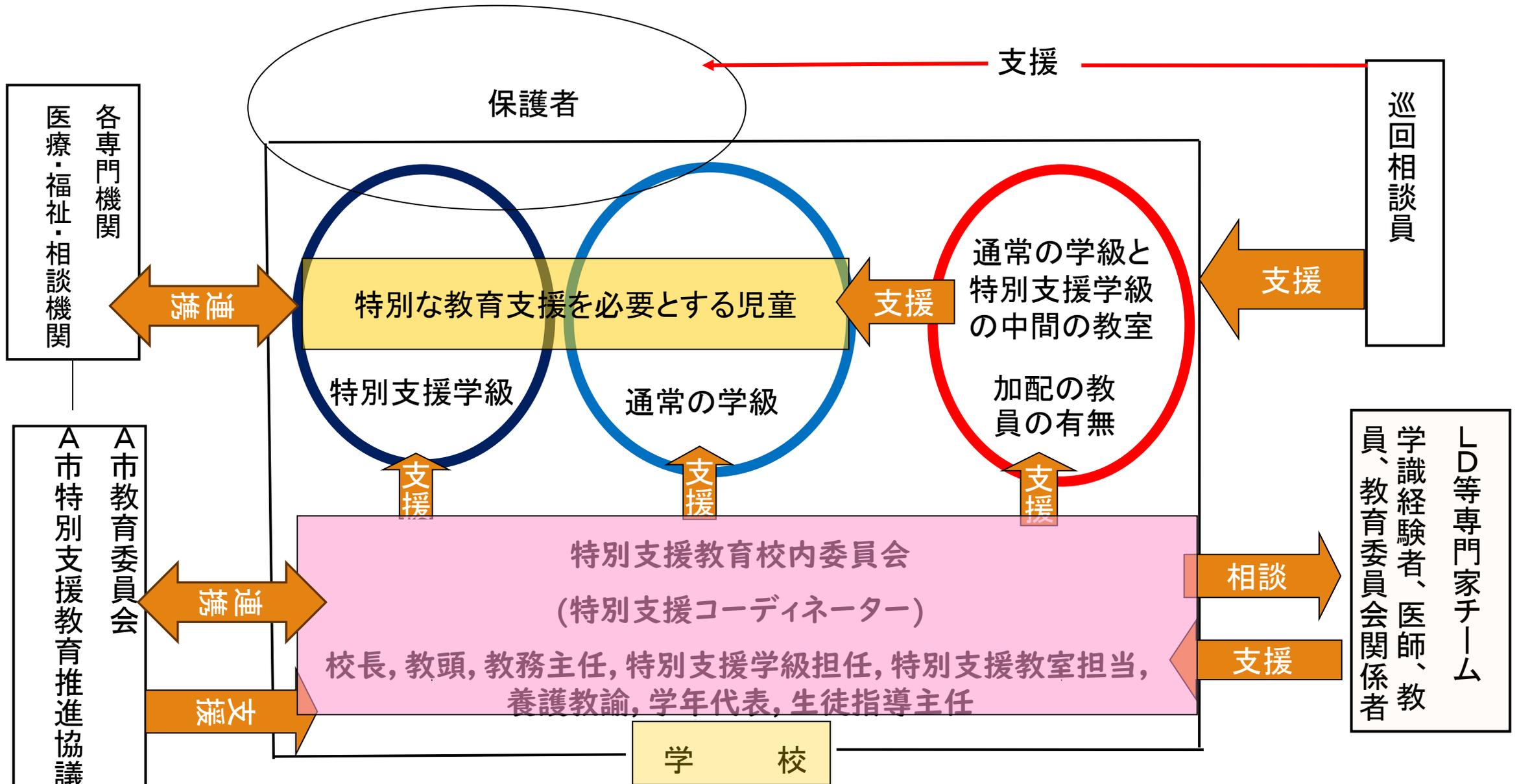
【安心・安全な学校づくり】

不登校の傾向のある子どもに学校内で安心できる場所をつくるために、空き教室等を利用する

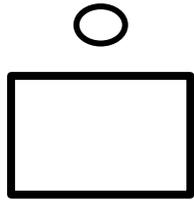
→国語、算数などの基礎的教科を個別に近い指導の場（550人規模で8人から10人程度の利用）→不登校の子どもの居場所

小学校（山梨県・和歌山県）

中学校（新潟県）平成17年度



特別支援学校, NPO, 市内小・中学校・幼稚園・保育所・大学等の外部機関とも必要に応じて連携する

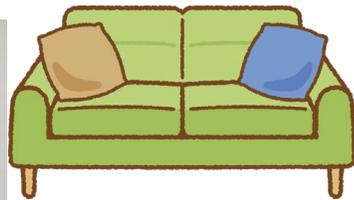


教材の棚

1年生から6年生までの教材



本棚などでパーテーションで区切る



座ると外から
見えないパー
テーション
(本箱の上に
植物を置く)

多職種連携の中で支援する場合

- ・子どもをまんなかにおいた支援

対等であること

自己選択・自己決定

支援者の専門性

教師は、子どもが人生の主役として
生きることができるよう支援する。

- ・個別の指導計画や教育支援計画を核として

- ・協働チームによる支援

「目標」→目的の明確化・共有

「役割」→役割分担・責任や権限の明確化

「仕事の進め方」→仕事の手順の適切さや共有、

ミーティングの進め方

「関わり」→対等性、平等性、各自の専門性の発揮



地域に頼られる学校があること



和歌山大学教育学部
武田研究室

武田鉄郎研究室ホームページから情報提供

<https://web.wakayama-u.ac.jp/~takeda7/>

発達障害の二次障害予防に関する情報

発達障害のある子どものための学級・学校支援ガイドブック
(13年分公表)

ASEBA (Achenbach System of Empirically Based Assessment)に関して

<https://www.spectpub.com/cbcl.html>

武田鉄郎編著 (2017) 発達障害の子どもの「できる」を増やす提案・交渉型アプローチー叱らないけど譲らない支援. 学研プラス.